

# 研修報告書

遼寧省朝陽市中心病院 普通外科

医師 李曉軍

2009年6月26日

研修を始めてから一年がたちました。先生から心を尽くしてご指導いただき、また、中国医科大学附属盛京病院の肝胆乳腺外科各位の先生たちから熱心なご指導をいただき、普通外科の病気の診断や治療方面にも大きな成果を上げることができました。今年間の私の成績を下に纏めました。

## 1、肝疾患へ理解と進歩

まず、CTの読影ですが、肝臓の腫瘍を手術前に鑑定している時、血管腫、肝臓腫、肝癌によりCT上にそれぞれの特徴がありますが、CTを読むことを通して、肝臓の腫瘍の鑑別と周辺の血管と胆管および周辺の臓器との関係がすぐ分かるようになりました。そして手術前の危機評価、難しさ、および手術の操作にも重要な指導ができます。肝機能の認識も、今回この分野の研修を通し更に深い理解ができました。肝臓は手術後、肝機能不全を処理するのが非常に難しいのですが、今回研修を通しこの問題を解決するのが手術する前に、肝臓機能評価をきちんと行うのが一番重要であり、また手術前と手術中と手術の後肝臓機能の保護の大事さを学びました。

私の地方病院ではなかなか大きな手術は行えませんが、しかし、今回の手術研修で学んだことは私の将来、様々な仕事にとっても役立つものだと確信しています。

## 2、乳腺疾患の診断・治療への理解と進歩

まず、乳腺疾患の手術を受けるかどうかを確認することについて更に学ぶことができました。乳腺疾患は乳癌の総合治療です。盛京病院は肝胆乳腺外科で乳腺癌の治療は非常に先端的です。たとえば各種類の手術方式の選択、各種類の化学治療の選択、私はこのことについて非常に理解を深めました。

## 3、研究の設置及び論文作成

私の地元の病院は実験の条件が悪くて学術の条件が整っていません。そのため、私はこの分野での知識が足りません。中国医科大学は学術の条件が非常に優れており、各種類の学会も多くあり、知らず知らずのうちに見聞きしたものに影響を受けました。科学研究の設計、統計学の知識、論文作成にも進歩することができました。このいろいろ経験したことは私と、いうまでもなく私の病院にとっても非常にいい機会だと確信しています。

しかし、仕事以外は生活上には困ったことがあります。たとえば、外科手術の時には時間通りにはあまり仕事が終わらないので、深夜12時をこえた勤務になるとバスが無く、

タクシーを乗らなければなりません。新しい研修生を迎えるときはこの点をご配慮していただいたら嬉しいです。

以上、この一年間研修では本当に多くのことを学びました。

中国医科大学笹川研修センターが私にこのような貴重なチャンスを与えていただき、またいろいろな方面にもお世話していただいたことにとっても感謝しています。そして、戴朝六教授や肝胆乳腺外科の各位先生かたがたにも本当に心から感謝いたします。

以上

